

**喜田議員** みなさんおはようございます。私からは通告していましたが、通告書に基づき、次の2点について質問させていただきます。マスクをしていますので、声がこもりやすいと思いますので、お聞き苦しいところがありますが、少し大きめの声で発言させていただきます。それでは、まず1点目、牟岐中学校部活動への助成についてお伺いします。牟岐中学校では、現在まで部活動の活動費用を牟岐町からの補助金として、PTAとそのOBで形成する「体育文化後援会」という組織の活動により、町民の皆様からの寄付金を充当しています。しかしながら、人口減による少子化に伴い、生徒を持つ世帯数も今年度は48世帯と減少しています。保護者及び後援会関係者への負担が大きくなり、今後、寄付金集めを行う活動が非常に厳しい状況となりつつあります。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響による自粛やスマートライフなどで、各個別宅への寄付金集めが大変厳しい状況となっています。この体育文化後援会の活動により、例年では、約140万円ほどが町民の皆様よりご寄付いただいているようですが、生徒の人数も減少し、部活動数も減っていますので、毎年、学校の方で予算配分の見直し等も行われているようです。現在は、牟岐町から学校管理費の補助とし、年間約160万円ほどの補助が充てられていますが、今年度を含め、今後もこのような組織の活動ができなくなった場合、部活動対象生徒保護者の負担は当然のこととなります。これらのことを踏まえ、現状は大変厳しい町財政ですが、牟岐町からの助成の増額はできないかお聞かせください。次に旧海部病院のコロナ療養施設計画への対応についてお伺いします。4月の県臨時議会により、旧海部病院をコロナ感染症の軽症者・無症状者の療養施設として整備する計画に8億5千万円の予算が成立したと、新聞やテレビ報道でありましたが、町職員をはじめ、私たち議員も寝耳に水で、このことに対し、町や議会をはじめ町民の皆さんへの事前の説明がなく、たくさんの皆さんが驚いている状況です。また、周辺の住民からは反対意見も出ているとお聞きします。旧海部病院は、県の施設であり、計画や決定は、県の判断によるものとは思いますが、この施設は、南海トラフ巨大地震による津波で浸水する恐れがあるとして、病院が高台へと移転し、現在は使用されていません。南海トラフ巨大地震の発生が、近づいているとされる中、建物が損壊すれば、患者の移動も伴い、感染リスクが高まることも考慮しなければなりません。このような状況下での軽症者・無症状者への宿泊療養施設の計画には、非常に心配がされる場所です。牟岐町の各所、また、海部郡への風評被

害も皆無とは限らないのではないのでしょうか。また、新聞報道によると、県がホテルを借り上げる費用を1室7,500円と算定している中、60室の改修費用、8億5千万円は単純計算で1室当たり1,416万円となります。ホテル借り上げ日数に換算しますと、1,888日の5年と2か月となり、ホテルを借り上げる費用に比べ、改修は破格な費用の予算が組まれてるようです。今後、コロナウイルス感染症が、第2波、第3波へと、どのような状態へと変化していくのか見えない中、このような施設が必要なのも理解はできますが、この牟岐町に施設計画がある以上、今後、利益や損害を受けるのは牟岐町民です。全町民に対しての安心のできる説明を行っていただきたいところです。計画では、今月下旬から工事が始まるようですが、県は感染拡大が終息した後は、宿泊施設など、地域のために使える施設にしたいとありますが、これから県の計画が進められていくのであれば、改修にあたる業者は優先的に牟岐町の業者を、また、改修後の施設運営スタッフには町民からの採用を、そして、民宿など既存の宿泊施設への影響が出ないように、調和のとれた運営、また、風評被害が生じないように、安全対策には万全を期していただきたい。そして、町民の皆様へのより詳しい説明をお願いしたいと思います。これらのことについて、県から牟岐町への説明は、現在、どのようにされているのでしょうか。また、牟岐町として、県に対して、どのような対応や要望を考えておられるのか、お聞かせください。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 私もマスクをしていますので、お聞き苦しい点が多々あろうかと思えます。私も少し大きめの声でご答弁させていただきたいと思えますので、よろしくお願ひします。まず、喜田議員のご質問の牟岐中学校部活動への助成についてお答えします。ご承知のように、本町の中学校の部活動に係る経費は、町の生徒派遣費以外に、「体育・文化後援会」の活動による町民の方々のご寄付金で賄われています。県下的には、市町村の生徒派遣事業や後援会のような組織がなく、保護者から集金で部活動の運営をしている学校が多い中、部活動を地域ぐるみで支えるという牟岐町ならではの「体育・文化後援会」の活動は、生徒だけでな

く、学校や保護者にとっても、大変ありがたい活動であると考えています。他方、議員ご指摘のように、少子化に伴い、生徒を持つ世帯数の減少により、集金に当たるPTAの地域委員の皆様や関係者の方々のご苦勞やご負担が大きくなり、活動の継続が厳しくなっているとも聞いています。今後、「体育・文化後援会」の活動ができなくなった場合に、町の助成の増額はできないかということですが、町の財政状況が大変厳しいことから、生徒派遣費の上乗せは難しいものと考えています。学校からは、町からの派遣費で生徒の交通費、ある程度の運用はできるが、地域の皆様からの寄付金のお陰で、選手の登録料や競技場使用料、また、用具代や派遣費が出ない大会の運営費等に活用でき、非常に助かるという話を聞いています。町としましても、伝統のある「体育・文化後援会」の活動の存続を望んでいますが、今後、活動ができなくなった場合には、県教育委員会主催の大会、いわゆる3号業務以外の参加大会数の縮減も視野に入れて検討していく必要があると考えています。次に旧海部病院のコロナ療養施設計画についてお答えします。旧徳島県立海部病院の改修につきましては、全国的に新型コロナウイルスが感染拡大し、緊急事態宣言が発令されてた4月後半、人命を第一に考え、急遽方針が決定されましたものと承知しています。徳島県の説明では、今後、新型コロナウイルスの感染が拡大し、入院患者が増加し、医療体制がひっ迫する懸念がある場合、重傷者への医療提供体制を確保するため、必ずしも入院が必要のない軽症者・無症状者の宿泊療養施設として、徳島県が保有し耐震化されている旧徳島県立海部病院を改修するものです。この事業がマスコミで報道された際、町民の方々や各種団体より、牟岐町内で感染拡大しないか、風評被害により売り上げが落ちるのではないかなどの意見が寄せられました。このことから、去る6月1日に開催されました「知事・市町村会議」におきまして、私から県に対して、町民は不安や心配があるため、施設の運用に際し、感染予防に配慮し、十分な安全対策を図るとともに、風評被害が起こらないよう万全の対策を講じていただけますよう要望をしています。県からは、今回の改修は、県内の医療体制の崩壊を防ぎ、県南地域をはじめとした県民の皆様の生命、安全・安心を守っていくためのものであり、施設の運用につきましては、感染予防に十分配慮し、万全の安全対策を講じるとともに、施設の安全性について適宜・適切な情報発信を行い、風評被害が発生しないよう取り組みを進めてまいるとの説明でした。この安全対策の具体例としましては、事前に療養中に守るべきことを十分説明し、そ

れを遵守できる方を受け入れる。患者は個室において療養し、外部と接触しない。看護師等が常駐し、毎日定期的に健康状態を確認するとともに、医師は必要に応じて迅速なオンコール対応を実施する。施設への移動は、専用車で移動する。患者とスタッフとの動線が分けられる適切なゾーニングを実施する。病状が急変した場合は、至近にある新海部病院で迅速に対応する。津波発生に備え、主要設備を高層階に設置するなどです。県においては、改修の趣旨や施設の安全性を正しく理解していただくため、説明会をはじめ、住民の皆様にも周知を図ってまいりたいとのことです。また、感染終息後は、通常は宿泊をはじめ、ワーキングスペースや地域の皆様の交流スペースとして活用するとともに、災害発生時は避難場所として、シームレスで地域の活性化や安全の強化に資する施設となるよう活用策の検討を進めてまいりたいとの説明でした。今後は、引き続き徳島県に施設の安全性に万全を期していただくとともに、感染終息後は町にとって有意義な施設となりますよう要望していきたく考えています。また、先ほど議員からいろいろなご要望をいただきました。その点につきましても、随時、県の方へ要望してまいりたいと思っておりますので、ご理解の程よろしく申し上げます。以上です。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 今答弁をいただき、ありがとうございます。牟岐町の大切な生徒達の健全育成や将来のためにも、この時期の部活動は大変重要と考えます。私達、生徒達が部活動に専念できる環境づくりを目指し、体育・文化後援会の方も応援していきたいと思っておりますので、町からの今後も手厚い支援をお願いしたいと思っております。また、旧海部病院をコロナ療養施設説明会につきましても、町民の皆さんが納得できて、牟岐町の活性化につながる。そして安全で安心できる施設となるよう、今後も重ねて県へ要望されることをお願いし、私からの質問を終わらせていただきます。